

# 春の遺伝子

作  
河合穂高

## 【登場人物】

- 役1 警備会社 社員
- 役2 警備会社 上役
- 役3 警官 上官
- 役4 警官 部下
- 役5 精神科医
- 役6 ジャーナリスト
- 役7 帰還困難者
- 役8 身元不明者
- 役9 小児科医
- 役10 研究者（専門：抗放射線薬）
- 役11 MR
- 役12 衆議院議員
- 役13 警官 鑑識
- 役14 研究者（専門：DNA解析）
- 役15 アナウンサー
- 役16 司会
- 役17 コメンテーター

※ 役は敢えて年齢を指定していない。一つの役を、同じ役者が必ずしも演じる必要はない。社会や物語の中で、人々は代替可能な存在として扱われる。

※ 役8はどんな場合でも同一の役者が演じる。役8は、第1部では、シーンの出番に関わらず舞台のどこかに存在し、常に観客の目に晒されている。

## 【背景】

遠くない未来の日本。

瀬戸内海の原因事故により、兵庫県西部から中国地方の3分の1、四国の一部が放射性物質により汚染され、帰還困難区域に指定された世界。原因事故から8年経過した今も、広い範囲で人が居住できない区域が残されている。

## 【舞台装置】

極力シンプルで何も無い舞台。机や椅子、足場にもなるような箱、もしくは段差が幾つか配置されている。円形舞台や3方向を客席に接したような舞台でも良い。舞台の一部、もしくは背景にスクリーンが組み込まれており、映像やスライドが映せるようになっていいる。

## 【上演時の連絡先】

河合穂高：de18018@s.okayama-u.ac.jp

第1部

※第1部は多くのシーンで構成されるが、シーンはリレーのように繋がれ、一塊の群体として第1部を構成する。

1

2人の男（警備会社社員（役1）とその上役（役2））が、スクリーンに映し出された映像を見ている。

荒廃した田畑。

蔦に覆われ瓦の剥がれた家々。

乗り捨てられた車。

ひび割れた道路。

音のない、長く単調な画面。

ドローンによる空撮の映像のようだ。役1はそのパイロットで、手元のタブレットもしくは操縦リモコンを操作している。

役1 ……あれ？ ……移動物あり。

役2 でかいな。

役1 カメラ切り替えます。

役2 ん？

役1 ……ヒト？

役2 座標は？

役1 座標表示。

役2 ……おかしいな。

役1 どうしますか？

役2 ……警察と消防に連絡。引き続き対象を追跡。

役1 了解。

役2 ……。

役1 ……こちら華東（ファートン）警備です。帰還困難区域の調査で現在空撮を行っています。不審者を発見したので情報を送ります。どうすればいいですか？ はい。……はい。分かりました。

役2 ……なんでこいつは裸なのかね？

役1 え？

役2 裸だろ？

役1 マジですか？

役2 だって、ほら。

役1 ……確かにそう見えますね。

役2 はあ……。

役1 なんてこんなところで？

役2 男の裸かあ。警察はなんて？

役 1 映像を送れって。  
役 2 男が裸でもねえ。  
役 1 ……警察に映像つなぎました。  
役 2 女はいないか、女は？  
役 1 いませんよ。  
役 2 独りってこと？ じゃ、なんで全裸？  
役 1 知りませんけど。  
役 2 えー。

全裸の男の白い背中が大写しになる。

2

警官 2 人（上官（役 3）・部下（役 4））が現れる。  
2 人の視線の先には、先ほどの男の背中。

役 3 おう、おう、おう。  
役 4 はい、はい、はい。  
役 3 どうだ？  
役 4 なんすか？  
役 3 この前、保護した、ほら。  
役 4 全裸男。  
役 3 上からせつつかれてんだけど。  
役 4 と言われましても。  
役 3 なによ？  
役 4 そもそも言葉が通じません。  
役 3 え？  
役 4 はい。  
役 3 外国人なの？  
役 4 いいえ。  
役 3 どういうこと？  
役 4 記憶喪失です。  
役 3 記憶喪失！  
役 4 はい。なんも覚えてない状態らしく。言葉も全く。  
役 3 なんそれ！ 聞いてないんだけど！  
役 4 フルチンでしたからね。  
役 3 確かに服は着てなかった。  
役 4 変態なんですよ。薬で記憶も飛ばしちゃったとか。  
役 3 薬物反応あんの？  
役 4 いいえ。  
役 3 ないんかい！ もういいよ。とにかくミ・モ・ト！ それだけでもはつきり

させないと。  
役4 はい。

3

精神科医（役5）が現れて、背後から役4に話しかける。

役5 奇妙なんです。

役4 奇妙？

役5 お掛けください。

2人は座る。

役5 普通の記憶喪失とも違うと言いますかね。

役4 あの変態ですか？

役5 ええ。この前、帰還困難区域で発見された患者さん。……変態？

役4 いえ。

役5 まあ、解離性健忘はあらゆるバリエーションがありますから、普通でないという定義がそもそも難しいのですが。

役4 解離性……？

役5 失敬。一般的に記憶喪失と呼ばれる状態のことを、解離性健忘と言うんです。

役4 なるほど。

役5 彼の場合には自分が誰であるか分からないし、言葉も話せない、意思疎通もできない。

役4 はい。

役5 日常動作も完全に忘れている。服も着れない。箸も扱えない。

役4 そうすね。

役5 しかし、どうも私の中でしっくりこないんです。そこで、別の技術を用いて、彼の脳の動きを確かめてみました。

役4 はあ……。

役5 するとですね、脳の動きは正常なんです。つまり、彼は、何も忘れていない可能性がある。

役4 ……え？

役5 最初から、何も知らないのです。

役4 ……ちよつと意味が？

役5 言葉も知らなければ、服の着方だって分かっている。

役4 赤ちゃんじゃないすか？

役5 そういうことですね。

役4 いやいや、だって大人……。

役5 だから、奇妙なんです。検査した数値は、どうも解離性健忘のようにみえない。しかし、実際に何も覚えていない。となると、考えられるのは2通りです。

役4 はい。

役5 全て忘れてしまったか、最初から記憶がないか。

役4 記憶がないって……そんなことありますか？

役5 ありません。

役4 !

役5 だから奇妙なんです。

役4・5 はそのまま顔を見合わせる。

4

ボックス式の喫茶店など、人目につきにくい静かな場所。

ジャーナリスト（役6）の隣に役1、その向かいには帰還困難者（役7）。

役6 こちらが調査報告書になります。

役6 は役7に封筒を渡す。

役7 ありがとうございます。

役6 こちらが空撮およびお骨の安置を担当しました。

役1 （会釈）

役7 ありがとうございます。

役6 では早速説明をさせていただきますと思うので、どうぞ。

役7 （深々と）よろしく願います。

封筒の中にはファイルされた書類が入っている。

役6 この地図、目的地までのアプローチが書き込まれています。お墓は、この辺り。間違いないですか？

役7 ……はい。

役6 同じ場所のドローンによる空撮写真がこちらです。この家がここですね。川が流れています。

役7 はい。

役6 そしてこちらが今のお墓の状態です。

役6 おい。

役1 はい。……あの。ご覧のように、ほとんど草でお墓が埋れてしまっている状態だったのですが、こちらのこれ赤外線フィルターという特殊なレンズでみると、墓石の字がとてよく見えて、これ、多分お客さんのお墓で間違いないかなと。

役7 間違い……ごいません……。

役1 良かったです。……それで、草刈りとかはできなかったんですけど、お墓の

前にお骨はこのように置かせていただいて。これ、写真です。  
役7 ああ……。

役6 埋めて差し上げることができたら良かったんですが、なにぶんドローンです  
ので安置させていただくのが精一杯で。一応、このように雨よけなどもさせて頂  
いて。

役7 ありがとうございます。

役6 いいえ。

役7 ……主人も。

役6 はい。

役7 これでやっと、主人も、村に帰ることができて喜んでおるんじゃないかと思  
います。先祖の墓に帰してやることができ……できれば、生きてもう一度……、  
本当はそう思うのですが……

役6 残念です。

役7 申し訳ありません。本当に、ありがとうございます。

役6 いいえ。私どももお手伝いできて何よりでした。

役7 これを。

役7は役6に代金の入った封筒を渡す。役6は中を確認する。

役6 確かに。こちら領収書になります。

役7 お世話になりました。

役7は去っていく。

役6 (役7がいなくなってから) お疲れさん。(封筒から直接金を抜いて) ほい。

役1 ……こんなに？

役6 もちろん。

役1 (役6の封筒を眺めながら) ぼってんなー。

役6 人聞きの悪い。

役1 被災者からむしりとってどうすんですか？

役6 危険区域に入ってたんだぞ？ 妥当な値段でしょ？

役1 入ってるのドローンですけど。

役6 技術代よ。どんなところでもお届けしますって。

役1 操縦してるの俺ですけど。

役6 話を見つけてくるのが大変なんだよ。

役1 そうですね。

役6 なんだ。やんねえぞ？

役1 要ります、すません。

役6 ったく。お客も喜んでた。俺らも報酬を得た。最高じゃんか。

役1 はい。あの。

役6 なんだよ？

役1 ひとつ聞いていいですか？

役6 は？

役1 帰還困難区域にどのくらいの間があるんですか？

役6 ……ん？ なんだ急に？

役1 や。なんかご存知かと思つて。

役6 それはどういう人間だ？ 作業で入つてる人間ならいっぱいいるぞ。

役1 住んでる人間です。

役6 「お前な、「帰還困難区域」だぞ。住んでる人間なんかいるわけないだろ？

役1 それが、最近、「全国土地活用社会」の関係で、汚染が激しくて除染の対象から外れたような地区を調査することが多くなつたんですが、この前そこで人間を見つけて。

役6 ほう。

役1 なんか。意外と人間住んでたりするのかなつて。

役6 どの辺り？

役1 えーと、兵庫県の端っこの辺です。岡山との県境。

役6 ふーん。

役1 その辺りで他に人間が住んでないか調査してるんですけど。

役6 普通は住んでないでしょ？ 見つかったら捕まるし。線量高すぎるしな。

役1 ですよねー。

役6 ま。普通はね？

役1 ん？

役6 範囲が広いからさあ。中国地方の3分の1と四国の一部、兵庫県も姫路の辺りまで帰還困難区域だろ？ 機動隊のパトロールが入つてるとつて、限度があるよな？

役1 じゃあ、やつぱり。

役6 検問に引つかからずに出入りしてる人間はたくさんいるだろうし、把握できてない地域だつてたくさんあるだろ。

役1 マジすか？

役6 というか、そうじゃなきゃ、さっきのサービスだつて成り立たないでしょ？

役1 ああ……。

役6 住んでる人間がいても驚かない。ただし、そんなところに住むメリットってなんだ？

役1 ……さあ。

役6 じゃ、またな。

役6 はぞんざいに封筒をポケットに突っ込み、去る。

5

身元不明者（役8）は、ぼんやりと椅子に腰掛けている。その目に力はない。

役8 ……。

役5と小児科医（役9）は遠巻きに役8を見ている。

役5 MRI画像見たかい？

役9 ええ。

役5 小児科医の意見が聞きたい。

役9 あなたの言う通りね。

役5 だろ？

役9 虐待された子供の脳なんてどこで見るの？

役5 学会で似た症例発表を聞いたんだ。

役9 最近の精神科学会は画像所見も出てくるのね。

役5 当たり前だよ。子供の脳はあんまり見ないけどね。

役9 とうるかこの患者いくつなの？

役5 よくわからないんだ。

役9 は？

役5 何も覚えてない。

役9 ……。

役5 もしくは何も知らない。

役9 ふーん。

役5 帰還困難区域で発見されたんだ。しかもかなり奥の方だね。どうやってそんなところに入り込んだのか今だによく分からない。

役9 でも、入り込めたのだったら、元々は記憶があったってことじゃないの？

役5 所見的に記憶障害はないと思うんだけどな。やっぱり虐待脳が一番考えやすい？

役9 そうね。重度のネグレクトを受けた子供の脳に一番似てる。たとえば記憶があっても、軽度から中等度の発達障害はあったんじゃないかしら。

役5 そうか。

役9 可哀想に。

役5 助かったよ。

役9 いいえ。

役5 回復してくれるといいんだが。

役9 言葉も通じないのじゃ、結構きついわね。

役5 うん。

役9 DNAバンクで検索してみたら？ 登録されているかも。

役5 本人か家族の同意が必要だよ。

役9 今回は大丈夫でしょ。

役5 そうかな…警察に相談してみる。

役9 ええ。

役5 ありがとう。

役8 ……。

役8はずっと前方を見つめたまま。開いたままの口から、一筋の涎がパタリと落ちる。

6

スポットライトの下、抗放射線薬研究者（役10）が浮かび上がる。彼女の背後のスクリーンには、実験のグラフやマウスの写真が映し出される。

役10 私どもの開発した新薬であるアブレキサフォルは、従来の抗放射線薬とは全く異なるアプローチに基づいています。現在用いられている抗放射線薬の多くは、細胞周期を停止させることで、放射線によるDNAのダメージを回避しています。しかし、細胞周期を停止させる事は、細胞にとってダメージが大きく、老化の促進や、免疫機能の低下などが報告されてきました。

それに比べて、我々が開発した新薬「アブレキサフォル」は細胞の持つDNAの修復機能に着目し、その機能を活性化する事で、放射線による障害を軽減します。

スライドが切り替わる。

役10 こちらはアブレキサフォルを投与したマウスと生理食塩水を与えたコントロールマウスに致死量の放射線照射を行なった実験結果です。コントロール群ではマウスは全て2週間以内に死亡しましたが、薬剤投与群では半数以上が生存しました。さらに、現在用いられている細胞周期停止性の抗放射線薬と、アブレキサフォルと併用投与を行なった実験では、それぞれ単剤投与を行なった群に比べ、優位に生存を認め、8割以上のマウスのレスキューに成功しました。

スライドが切り替わる。

役10 これらのマウスから骨髄を採取し、標本作製、観察を行うと、薬剤投与群では正常な骨髄組織が観察され、細胞形態にも異常は見られませんでした。これらのことから、放射線照射による骨髄への影響を、薬剤が抑制していたことが明らかとなりました。

7

役6とMR（役11）は、少し離れた位置から聴衆に混じって役10の話の聞こえている。

役6 なに言ってるのかさっぱり分からんな。

役11 放射線の影響を抑えられる新薬を開発したってことですよ。

役6 それでもっと汚染区域で働いて？

役 1 1 より労働者が守られるってことです。

役 6 有名な先生らしいな。

役 1 1 この分野では第一人者です。実際、アブレキサフォルは今大注目な薬で、従来の抗放射線薬と一緒に服用すると、放射線によるダメージを大幅に軽減できると考えられています。

役 6 ふーん。

役 1 1 なんで直接会う気になったんです？

役 6 そりゃお前、人助けだよ。

役 1 1 嘘でしょ。

役 6 嘘じゃねえよ。ま、1人くらい抗放射線薬の権威の知り合いがいても、悪くないとは思ったけどな。

役 1 0 が2人の方へ歩いてくる。

役 1 0 お待たせしました。

役 6 どうも先生、お忙しいのに。

役 1 0 前沼です。

役 6 田邊です。

役 1 0 ご足労いただきました。

役 6 東京住まいですから。

役 1 0 (役 1 1 に) 木村くんも、ありがとう。

役 1 1 いえいえ。

役 6 随分盛況でしたね。

役 1 0 え？

役 6 先生の時だけ聴衆の数がぐっと増えてましたよ？

役 1 0 聞いてくださったのですか？

役 6 もちろん。質問も沢山出てましたし。注目度が高いのがよくわかりました。

役 1 0 恐縮です。  
役 6 さて。先生、どうしましょう？ 外に出ても構いませんし、ご都合はいかがです？

役 1 0 でしたらロビーに喫茶店がありますからそこで。

役 6 構いません。

3人は、役 1 0 に促され、座る。

役 6 しかし、先生があんな写真集を手にとって下さるなんて。

役 1 0 どうして？ 素晴らしい本じゃないですか？

役 6 素晴らしいかは分かりませんが、暗いでしょう？ セトウチの本なんて。

役 1 0 私、出身岡山なんです。

役 6 え？

役 1 0 こっちに移って来ていたので、被災はしてないんですけど。

役 6 そうでしたか。どの辺りです？

役10 岡山市のすぐ近くで高島って場所なんですけど。

役6 ああ。

役10 ご存知ですか？ だから、(本を指して)出てくると懐かしくて。

役6 岡山駅ももうすぐ解体されるみたいですね。

役10 え？

役6 除染のために。

役10 ……。皮肉と思われました？ 原発事故で故郷を失った人間が、抗放射線

薬の研究なんて。

役6 いえ、そんな。

役10 私は思います。抗放射線薬は数日間の放射線の影響を抑えることしかできません。つまり、これは帰る人たちのための薬じゃない。一時的にそこで作業をする人たちのための薬です。

役6 ……そうですね。だけど、それで除染作業が安全に早く進めば、それだけ帰還も早まるんじゃないですか。

役10 でも今は、そういう人たちが土地の人の田んぼを均して、無人工場を建設している。

役6 ……先生。僕はあんまり察しのいい人間じゃない。言っしてほしい言葉があるなら言ってください。そのようにお答えしますよ？

役11 田邊さん。

役6 ……。

役10 ……いえ。すいません。

役6 ご用件を伺いましょうか？

役10 ええ。

役10 が居住いをただし、空気が変わる。

役10 この本の、この写真。

役10 は写真集のあるページを開く。

役10 ここに、1台青い車が停まっていますよね？

役6 はい。

役10 これ、私の弟の車なんです。

役6 ……え？

役10 実は、私には1人弟がおるのですが、それが5年前から連絡が取れなくなっていました。

役6 ほう。

役10 詳しいことはわかりません。弟が乗ってきていたのかも分からない。けど、この日付の時に、少なくとも弟の車はここにあったんです。

役6 なるほど。

役10 それで、詳しい場所を教えてくださいなと思って、木村さんに連絡を取ってもらったんです。

役6 ちょっと失礼。(写真集を自分の方に引き寄せて)……これは、兵庫県の相生とか上郡の辺りだと思います。写真のデータが位置情報と紐付けされていますから、調べれば写真を撮った場所は特定できるかと。

役10 そうですか。

役6 でもこの辺りは線量が強くてまだ除染も始まってない場所ですよ？

役11 じゃあ入れないじゃないですか？

役10 理由は分かりませんが、この近くに彼の昔の職場があったんです。

役11 忘れ物があったとか？

役10 写真にも写ってます。(指して)この建物です。

役6 これは……

役11 何これ？

役6 ……第6産学複合都市。

役10 そうです。弟はこの研究員だったんです。

9

警官たち(役3・4)の会話が割り込んでくる。

役3 おいおいおい。

役4 はいはいはい。

役3 例の、あの記憶喪失、身元分かったんだって？

役4 出ましたね。

役3 おいおい、早く言えよ。

役4 はいはい。すいません。

役3 んで？

役4 避難民みたいすね。

役3 ふんふん。

役4 ……(書類なのかパソコンのデータなのかを取り出して)えー、名前が前沼秀(まえぬまひで)。年齢が、今年で39歳。

役3 39？

役4 はい。

役3 え、そんなに年取ってるの？

役4 はい。

役3 見えないんだけど。

役4 そうですねえ。

役3 それ情報、合ってる？

役4 合ってるとは？

役3 内容が正しいのかって？

役4 え……。正しいと思いますよ？だってDNAが一致したんですから。

役3 DNA……。DNA……。そりゃDNAとか言われちゃうと、何にも言えないけどさ。違和感あるな、俺は。

役4 そう言われても、そういう結果ですし。

役3 ……まあいいか。とりあえず聞こう。

役4 出身は岡山県岡山市高島。岡山大学理学部生物学科を卒業して、大学院で修士まで取ってますね。

役3 出た、岡山の東大。

役4 は？

役3 お気になさらず。

役4 その後、産学複合都市の研究所に勤務。主に「実験動物を用いた臓器培養」？の分野で研究を行っていたみたいです。

役3 ふんふん。

役4 で、瀬戸内原発事故で生活圏が帰還困難区域に指定され集団避難。避難先は、三重県に作られた避難都市で、両親と一緒にですね。

役3 結婚はしてないんだ。

役4 ええ。で、避難先の臓器関連工場に勤めたみたいですけど、1年くらいで体調を崩して退職してます。

役3 なんで？

役4 それは書いてません。

役3 SNSはないの？

役4 書き込みは少ないですが、インスタとフェイスブックがありました。

役3 ふんふん。

役4 最後にインスタにアップされてる写真が、兵庫県西宮市のスターボックスで撮られたものというのは分かっています。

役3 いいじゃん。その辺もまとめてさ、精神科の先生に渡してあげてよ。秀くんには、なんとか思いだしてもらおう。いろいろとね。

10

病院。

役8 が座っている。

役10 は役8に対峙している。

役10 は、全く目が合わない役8に明らかに戸惑っている。

役10 の背後には役5。

役8 ……。

役10 ……。

役5 いかがですか？

役10 弟で間違いないと思います。

役5 記憶障害があるので、少し印象が変わっているかもしれません。

役10 そうですね。少し…幼くなったような。

役5 ご家族でもそう感じられますか？

役10 いえ。5年も会っていないので。分かりませんが…あの、記憶障害

は治るでしょうか？

役5 正直、なんとも分かりません。ただ、今回身元が分かったので、今までより具体的な刺激を与えられる分、すこし有利かもしれませぬ。

役10 なるほど……。

役5 どうされました？

役10 正直、少し怖いです。

役5 怖い？

役10 昔の、彼とは随分雰囲気が違うので。なんて言ってあげたらいいのか。

役5 そうですね。

役10 ……すいません。

役5 大丈夫ですよ。焦ることは何もないんです。これから少しずつ取り組んでいけばいいわけで。ゆっくりやりましょう。

役10 全部忘れてしまうなんて……、一体何があったんでしょう？

役5 そうですね。

役10 ……ヒデ。

役5 前沼さん。

役10 はい。

役5 まずは、弟さんが帰ってこれたことが、何より一番大事だと思います。

役10 ええ。

役5 今はまず、前沼さん自身や、ご両親の中で、少しずつ現状に慣れていきましよう。弟さんはずっとここにいますし、いつでも会う事ができます。今まで知っている弟さんとは少し違うので、戸惑いが大きいんです。

役10 ……はい。

役5 大丈夫ですよ。

役10 ……ありがとうございます。

役5 私たちもいます。きついことはなんでも言ってください。

役10 はい……。

1  
1

某衆議院議員（役12）は自信満々に聴衆に語りかける。  
かつての産学複合都市構想の講演会。

役12 産学複合都市とは、日本の研究の国際競争力を高めるために、全国8箇所  
に新設された新しい学術戦略都市のことです。企業と地域の大学が連携し、得ら  
れた研究成果を即座に実用的な技術に応用、商業化する。また、同都市は行政特  
区に指定されており、世界から有望企業を呼び込み、新たな雇用創出と人材の育  
成にも繋げていけるよう考えられています。また、それぞれの都市には次世代ス  
ーパーコンピューターが配備されており、研究用AI「深海」が搭載されています。  
つまり、この都市は、企業と大学とTVが手を取り合って、従来のしがらみに囚わ  
れない、斬新かつハイレベルでスピード感のある研究を進めることが可能なので

す。実際、それぞれの諸都市が発表した論文数や取得した特許の数は、他大学の平均を大きく上回っており、目覚ましい成果をあげ始めています。日本の底力がかつて、メイドイン ジャパンというだけで、ブランドとなり得た時代があったことを。世界一の経済大国であった時代を取り戻さなくてはならない。産学複合都市構想は、我が国の生命線であり、技術大国日本の新たな幕開けを告げる最初の一手なのです。

電話の呼び出し音。

演説はそれで断ち切られる。

1  
2

引き続き電話の呼び出し音。

しばらくして呼び出し音が止まり、唐突に役6が喋りだす。

役6 帰還困難区域で、全裸の死体が沢山出るって本当？

電話の相手は役1。

役1 ……どこから聞いてくるんです？ そんな話。

役6 まあ、色々。

役1 ……ちょっと待って下さいよ。

役1 は周りを気遣い、あたりを確認する。

役1 調査するたび出てくるんですもん。困りますよ。

役6 なに、強姦殺人みたいなそんな感じ？

役1 いやいや。女もいましたけど男の方が多いですよ。

役6 ふーん。

役1 探す方はたまったもんじゃないです。

役6 しかも身元が分からないんだって？

役1 全裸ですからね。

役6 なんだろうなあ。なんか気になってなー。

役1 今度捜査が入るみたいですよ？

役6 その事件の？

役1 ええ。それとこの前自分が調査で帰還困難区域に人を見つけたっていう。

役6 ああ。

役1 なんか、色んな調査をまとめてやるって。

役6 ほーん。そうなんだ…。

間。

- 役1 あの、俺も聞いていいですか？
- 役6 なんだよ？
- 役1 あの辺りって、人がいないのに電気は流れてるんですか？
- 役6 なに、どういうこと？
- 役1 いや。夜間にあの辺り飛んでると、明かりのついた建物が結構見えるから。
- 役6 はいはい。
- 役1 え？
- 役6 調査してたのって、第6産学複合都市の辺じゃなかったか？
- 役1 そうです。
- 役6 風車がたくさんあっただろ？
- 役1 ありました。
- 役6 産学複合都市とその周辺は、基本的に再生可能エネルギーで動いてるんだよ。
- 役1 そんな不安定なもので動いてるんですか？
- 役6 そだよ。で、それをやり繰りしてるのが、人工知能「深海」。産学複合都市およびその関連施設は地下茎のようなケーブルで繋がれていて、「深海」がどの施設にどれだけのエネルギーを注ぎ込めば全体がうまく維持できるかを計算してるわけだな。
- 役1 じゃあ、「深海」って今も稼働してるんですか？
- 役6 してるよ。動かさなきゃもったいないだろ。
- 役1 まじですか。
- 役6 お前な、ヤマモト政権が言ってる「全国土地活用社会」をなんだと思ってるだよ？
- 役1 どういう事ですか？
- 役6 いかにも今遊んでるセトウチの土地を、金に変えるかって事でしょ？
- 役1 え？
- 役6 多少線量の高い地域でも無人工場の建設を可能にした、いわゆる「土地活用法」。抗放射線薬の使用を義務付けるかたちで、短期間であれば高線量地域でも人間が働くことを可能にした「労働者健康増進法」。復興を旗印に、セトウチ周辺に特区を設け、外国企業の誘致を狙った税制優遇措置。全部いかにセトウチをまた金を生み出せる場所にすることなんだよ。
- 役1 なるほど。
- 役6 だから、第6産学複合都市は、**△**に最低限の現状維持をさせて、その間に労働者を突っ込んで一気に無人工場を整備、また使えるようにするつもりなんだろ。
- 役1 そうだったのか。
- 役6 知らんよ？ だけど、それが一番考えやすいつて話。
- 役1 ふーん。
- 役6 ……よろしいですか？
- 役1 はい。すいません。お忙しいところ。
- 役6 いや。そういえば、捜査が入るのはいつ頃だっけ？
- 役1 1ヶ月後くらいって言ってましたけど。
- 役6 そう。ふーん……。あんがと。

ぶつりと食い気味で、通話が切れる。

13

警察署の一室。

難しい顔をして役4はパソコンの画面を眺めている。

役3 おいおいおい。どうだい？ ヒデくんは何か思い出してくれた？

役4 全然す。

役3 そうなの？

役4 家族が来ようが、写真を見せようが。

役3 なかなかしぶといね。

役4 そのせいで、私が色々データを調べて送らなくちゃいけなくて。

役3 なるほど。いいね。こき使われてるね。

役4 他人事みたいに言わないでくださいよ。

役3 まあまあまあ。で、そのグロテスクな画像はなんなの？

役4 これは、件のヒデくんがやってた研究の背景です。

役3 へー。

役4 なんか英語の論文も出してるんすけど、専門的すぎて分からないので、とりあえず日本語でないかなと。

役3 熱心でよろしい。で？ どんな内容なの？

役4 それがですね、簡単に言ってしまうえば、豚の体の中で、人間の臓器を作らせるって事です。

役3 え、え、え？

役4 やばくないすか？

役3 どういう事？

役4 説明してもイメージつきづらいと思うんすけど、えーと、豚の受精卵ってあるじゃないですか、精子と卵子がくっついたやつ。

役3 え？ はい。受精卵。はい。

役4 その中に人間のiPS細胞を導入する事で、その赤ちゃん豚が育っていくと、赤ちゃん豚の中に人間由来の細胞でできた臓器が作られていくという事です。

役3 ……なんでそんなことしなきゃいけないの？

役4 つまりですね、例えば、豚の受精卵の遺伝子を事前に弄って、肝臓を作る遺伝子無くしておきます。そうすると、その豚の赤ちゃんは普通に育っても肝臓を作る事ができないから、肝臓のない子豚ができるわけです。

役3 ふんふん。

役4 それで、さっきの人間のiPS細胞の話に戻ります。

役3 う、うむ……。

役4 その肝臓が作れないように遺伝子を細工した豚の受精卵に、人間のiPS細胞を放り込んでやる。すると、人間のiPS細胞は細工をされていないので、肝臓を作る機能が残っています。だから、空いた穴を埋めるみたいに、豚の細胞が作れ

ない肝臓を、人間由来の細胞が作ってくれるわけです。……意味わかります？  
役3 んー、つまり、赤ちゃん豚の中に、人間の細胞だけでできた肝臓が出来上がるといふ事？

役4 そうです。

役3 吐きそう……。:

役4 まだですよ。これはどんな意味があると思います？

役3 分からんよ……。

役4 2課の課長いるでしょ？

役3 え？ いるね？

役4 あの人、この前奥さんから肝臓移植してもらってたじゃないですか？ 肝臓壊したから。

役3 なんか、毎日薬飲まなきゃいけないみたいで大変だね？ あれ、一生飲まなきゃいけないんでしょ？

役4 免疫抑制剤。

役3 そうそれ。

役4 そんな薬を飲まないといけないのは、課長に移植された肝臓が、他人の肝臓だからです。どれだけ愛し合っていた奥さんでも、所詮は他人。部長の体にとっては異物であり、排除すべき対象なんです。

役3 まあ、そんなに愛し合ってたら、あんなに酒飲まなかった気もするけど……。

役4 おほん。

役3 はいはい。

役4 ですが、もしこれが先ほどの豚ちゃんの技術を使えばどうでしょう？

役3 おお？

役4 課長の体から作ったiPS細胞を、肝臓が作れない豚の受精卵に導入してやる。そうすれば生まれた子豚の中には、課長の細胞でできた肝臓が作り上げられるわけですよ。

役3 おお！

役4 その肝臓を取ってきて、課長の体に移植してやれば……

役3 全部自分の細胞でできた肝臓だから、薬を飲む必要もない。

役4 さながらアンパンマンが新しい顔を取り替えるように、古い肝臓を新しい自分の肝臓に置き換える事ができる。もちろん、従来の治療であった副作用もありません。奥さんも、お腹を切られる必要がない。

役3 夢の技術だ。

役4 ……（何故か得意げな顔）。

役3 なんてお前が得意げなの？

役4 いや。我ながらよく勉強したと思いません？

役3 そうね。

役4 今日、朝からこれしかやってません。

役3 おま。仕事しろ。

病院。

役8と役10が対峙している。役8の頭には電極が繋がれている。  
役5は遠巻きにその様子を観察し、パソコンの画面上で脳波の動きを見比べている。

役8 ……。

役10 ヒデ。ほら……この写真見て。みんなで台湾に行った時の写真よ？ これ  
があなた。これが私。父さんと母さん。これも。小籠包が有名な店。でも私たち、  
八角の味が嫌で、たまごスープばかり飲んでた。……どう？

役8 ……。

役10 それから、あなたの卒業アルバムも持ってきた。こっちが大学で、こっち  
が高校のやつ。ほら。あなたが写るところ、印をつけてきたの。見て、これ  
金光君。これは、結城君。岬さんも。大学のころのあなたはよく分からないけど。  
これとか、すごく楽しそう。サイクリング部の飲み会？ あ、岡山城だ。懐かし  
い。これ後楽園か……。

役8 ……。

役10 どう？

役8 ……。

役10 ヒデ……。

役8 ……。

役10 ヒデ……。

役8 ……。

役10 ……。

役8は手を伸ばし乱暴にアルバムのページをめくる。中の写真よりは、純粹に本の  
ページをめくるのが興味深いようだ。役10の言葉は全く届かない。  
やがて役10の呼びかけは止まってしまふ。

役5 ……お疲れ様です。

役10 ……ああ。

役5 今日はこの辺りにしましょうか。

役10 ……はい。すみません。

役5 いえいえ。

役10 どうも……。なかなか難しいですね……。

役5 弟さんの場合、言語にも記憶障害があるから余計ですよ。でも、前沼さんが  
色々写真や、名前を呼びかけてくださるのは、間違いなく彼になんらかの影響が  
与えているはずですよ。どうか焦らずに。確実にやっていきましょう。

役10 ……はい。

役5 前沼さん。

役10 ……。

役5 大丈夫ですか？

役10 ……。

役5 ……。

役10 私がすっかりしなくてはいけないのはよく分かってるんです。

役5 ええ。

役10 だけど、なんだか果てしない気持ちになってしまつて…。

役5 ええ。

役10 私たち、正直そんなに仲の良かった姉弟ではなかったんです。むしろ、お互いたまに会つてもなに話したらいいのか気まづくつて。正月に少し顔を合わすくらいでしたし…。だから、急になんか、自分が肉親みたいな、こうやっていかに話しかけてる感じが、彼にとつても嫌なんじゃないかって。彼が私を無視するのも、見透かされてるみたいで。ごめんなさい…、頭では分かってるんですけど。そうじゃないのは。

役5 (無言で何度も頷く) おっしゃりたいことはわかります。

役10 すいません。

役5 だけど、自分のために時間を使つてくれる人間がいるというのは、それだけで、彼は嬉しいと思いますよ。

役10 そうでしょうか…。

15

役9 は役5の背後から声をかける。

役9 確かに妙ねえ。

役5 だろ？

役9 は先ほどの面接の様子をビデオで見ているようだ。

役9 脳波にも全然反応がない。

役5 普通、人間に直面したら、もう少し反応があるはずなんだ。それどころか相手は肉親だからね。

役9 全生活史健忘だからではないの？

役5 それにしたつて反応が弱すぎる。

役9 つまり？

役5 君だって、知らない人間に会ったら色々考えるだろ？ 誰だろう？ とか、なにを話してるんだらうとか。

役9 そうね。

役5 ……彼は本当に記憶を失つてるんだらうか？

役9 は？

役5 最初からものすごく違和感があるんだ。彼に直面するとわかるんだけど、彼の頭はすごく冴えてる。基本的に記憶障害がある人間って、自分の中の記憶の欠

落し違和感を感じるはずなんだよ。彼のように、言語まで失ってしまった人間ならなおさらだ。だって赤ん坊と同じなんだから。泣き叫んだり、暴れまわったり、それが普通のはずで。

役9 ふむ。

役5 だけど、彼にそれはみられない。人間に対する興味も極端に低い。

役9 演じてるってこと？

役5 それはない。人対人では騙せても、脳波の反応は隠せない。

役9 そうか。

役5 一つ可能性があるとしたら、彼の記憶が一度完全にリセットされてから、年数が経過して、新しい今の人格が定着してしまった。

役9 なるほどね。

役5 だけどそれなら、彼はどうやってあんな荒野で生き残ってこれたのか。

役9 ……別人なんじゃないの？

役5 え？

役9 別人だったりして。

役5 だけど、遺伝子鑑定で本人だって。

役9 一般的な遺伝子検査って、一部の遺伝子しか見てないんだから、あくまで可能性が高いつてだけでしょ？ せっかく保護前のホルゲノムの情報があるんだから、それで調べてもらったら？

役5 別人の可能性なんてあるだろうか？

役9 普通は考えにくいけど。だけど、あなたが気になってんでしょ？

役5 うん。

役9 知り合いにいいのがいるから、今度紹介してあげる。

役5 頼むよ。

16

帰還困難区域内のある建物。数人の人物が、現場検証を行っている。  
時折焚かれるフラッシュ。

部屋の真ん中には、丸く輪を作ったロープがぶら下がっており、床には骨が散らばっている。

役13 こちらです。

鑑識官（役13）が役4を伴って出てくる。

役4 うわ。

役13 かなり古い遺体のようで、完全に白骨化しています。

役4 バラバラ。

役13 おそらく、これで首を吊って、落ちた遺体を犬か何か食い荒らしたのでしよう。

役4 ああ……。  
役13 それで。これです。  
役4 ……。

役13 遺書と思われませう。

役4 前沼……ヒデ。

役13 はい。

役4 ええ!?

役13 この前保護した人物ですよ。

役4 ……そう、だね。

役13 こちらが所持品です。

役4 は所持品を確かめる。

役4 免許証あるじゃん……。

役13 本人っぽくないですか？

役4 えー。だって……。

約19 遺伝子鑑定出します？

役4 やりませうとも。だけど、こんなでも大丈夫なの？

役13 まあ、微妙ですけど。塩酸とかで溶かされてなきや、大概大丈夫ですよ。

役4 ……。

役4 は散らばった遺骨を見下ろす。

役4 ここは？

役13 前沼の住んでいた部屋です。

役4 ……。全然関係ない人かもしれない。

役13 え？

役4 偽装殺人の可能性だってゼロじゃない。

役13 なるほど。

役4 でも、もし一致してしまつたら……保護したアイツは誰なんだ？

第2部へ。

## 第2部

1

夜。

帰還困難区域、最深部。前沼ヒデの遺体が見つかった部屋。

蛙の声が辺りを埋め尽くしている。

役10は竹んで、しばらく自分の弟の遺体が見つかった部屋を眺めている。

それからおもむろに機器を取り出し、電源を入れる。

機器はスイッチを入れた途端に大きなアラーム音を発する。

役10は慌てて機器の電源を切って辺りを伺い、何もないと分かると音量を調節して、もう一度調査を始める。

役10 ……。

役6は少し離れた物陰から、役10の動向を伺っている。

役6 ……。

機器は絶えずアラームを発しており、役10は何度もその数値を確認し、やがて諦めたように機器の電源を切る。

役10 ……。

役6はしばらく役10の様子を伺ってから、声をかける。

役6 前沼先生。

役10 !

役6 ……。お久しぶりです。

役10 ……。田邊さん？

役6 ええ。

役10 どうしてここに？

役6 今回のプロジェクト私も参加してるんです。

役10 そうなんですか！

役6 水先案内人ですがね。

役10 びっくりした……。

役6 こっちもですよ。偶然、ここに入って行くのが見えて。最初、幽霊かと思いました。

役10 幽霊？

役6 だって、先生がいるなんて思わないでしょ。

役10 そうですね。

役6 結構危ないんですよ。人が住まなくなった家って、崩れやすいから。それどころか、ここは高線量区域です。いくら薬を飲んでるからって、気軽に外出していい場所じゃないんですけどね？

役10 はい。

役6 初めてですか？

役10 え？

役6 帰還困難区域に入るのは？

役10 ああ、はい。

役6 人間がいなくなった後の世界って、こうなっていくのかって思いませんでした？

役10 え？

役6 子供の頃、ある時人間が世界から消えてしまったらどうなるのかって、そんなことが現実になるなんて考えもしませんでした。

役10 確かに。

役6 どうです？ そんなSFな世界に飛び込んだ感想は？

役10 どうって……。

役6 いつも聞くことにしてるんです。初体験の感想。

役10 ……。

役6 じゃあ質問を変えましょうか。ここで何してたんです？

役10 ……！

役6 いやいや。何か調べてましたよね？

役10 あれは、その。研究のためにデータを集めてたんです。

役6 そんなの昼間やればいいじゃないですか。

役10 今やらなくちゃいけない調査だったんですよ。

役6 お一人でですか？

役10 簡単な調査ですから。

役6 他人の部屋に勝手に上がり込んで？ もちろん許可は取られてるんですけどね？

役10 それは……。

役6 高線量区域では、基本的にどんな施設でも立ち入り禁止です。侵入には許可がいる。

役10 あなただって今こうしてここに入ってるじゃないですか？

役6 私はただ、たまたま不審者を見かけてついてきただけです。

役10 不審者って。

役6 ここへ来るまでも随分挙動不審でしたね？

役10 跡をつけてたんですか？

役6 声をかけられなかったんですよ。何やらお取り込み中のようなだったので。

役10 ……。

役10 は部屋を出ようとする。

役6 先生。このままだと完全にクロですよ？

役6 はレコーダーをポケットから取り出し、ヒラヒラと見せびらかす。

役10 ！

役6 これはリアルタイムで音声を記録して、テキスト化までしてくれる便利アイテムです。もちろん、テキストは保存されてクラウドに自動送信されています。

役10 録音してたんですか？

役6 録画機能もありますよ。

役10 何がしたいの？

役6 ちゃんと先生とお話ししたいと。それだけです。

役10 は？

役6 先生。ここで何をされてたんですか？ 先生がわざわざこんな所まで出向いてくるなんて、ただの調査が目的じゃないですよね？

役10 ……。

2人は対峙する。

役6 では私から先に種明かししましょう。私がこのプロジェクトに参加したのは、ある事件を調査するためです。

役10 事件？

役6 最近、この周辺で全裸の死体がいくつも見つかっているのはご存知ですか？

役10 全裸？

役6 しかも亡くなり方が異常なんです。死体はみんな、餓死していたと言います。

役10 餓死。

役6 餓死なんて今時、なかなか聞きませぬよね？

役10 ……。

役6 まあまあ。そんな怖い顔しないで下さい。このレコーダーね、スイッチ入ってませんか。

役10 ……へ？

役6 本当ですよ。どうぞ。よく調べて下さい。

役6 はレコーダーを数歩先に置いて離れる。役10はおそろおそろそれを拾って、電源が入っていないことを確認する。

役10 ……。

役6 もし心配でしたら、電源を入れて履歴を見ても構いません。

役10 (悔しいので電源を入れて、履歴を確認する。実際、履歴は存在しない。)

……。

役6 ないでしょ？

役10 なんてこんなややこしい事を？

役6 お陰で先生の足を止めれたし、一番聞きにくい質問ができました。

役10 ……そうですか。

役10 はレコーダーを役6に返し、今度こそ帰ろうとする。

役6 とところで先生、本題ですが。

役10 あなたと話すことはありません。

役6 施設内に入りたいたいんじゃないんですか？

- 役10 ……。
- 役6 ちなみに、今のままでは施設内には入れませんか？ 二〇が必要ですし、8桁の暗証番号も要ります。
- 役10 あなたは持つてるんですか？
- 役6 もちろん。
- 役10 は？ なんで？
- 役6 昔の職員から買いました。
- 役10 え？
- 役6 元々、一人でも入るつもりだったんです。だけど、先生の名前を見つけたときに、何か考えておられるんじゃないかと思って。
- 役10 あなたは何を知りたいんですか？
- 役6 先生と同じですよ。
- 役10 ……さっきの、全裸の死体ですけど。
- 役6 似てますよね。弟さんの件と。
- 役10 ……それも知ってたんですか？
- 役6 ええ、まあ。
- 役10 生きてる人はいないんですか？
- 役6 ええ。全員死因は餓死か事故死らしいです。誰も生きていません。あなたの弟さんを除いて。
- 役10 ……もしかしたらですけど。
- 役6 はい。
- 役10 みんな記憶を失っていたのかもしれないですね。
- 役6 ……。
- 役10 発見された弟は何も覚えていませんでした。服の着方も、食べ物が何かさえ。
- 役6 ……そうなんですか？
- 役10 その人たちも、同じだったんじゃないですか？
- 役6 捨てられた赤ん坊と同じ。だから何もできずに餓死した。
- 役10 ええ。弟も発見が遅れていたら…。
- 役6 ……ちなみに、弟さんはなぜ記憶を失くしていたんです？
- 役10 分からないんです。
- 役6 まだ記憶を取り戻してないんですか？
- 役10 はい。というか、どれが本当の弟なのかも良くわかってなくて…。
- 役6 どれが？
- 役10 え？
- 役6 え？
- 役10 この部屋は、その弟の部屋です。
- 役6 え…。
- 役10 え…。
- 役6 私だってなんでも知ってるわけじゃありません。

役10 先日、この部屋で白骨死体が見つかったんです。そしてそのDNAが弟のものと同じってしまっただけです。

役6 ……どういふことですか？

役10 それはこっちが聞きたいですよ。

役6 じゃあ、弟さんが2人いたってこと？ どっちかが偽物ってことですか？

役10 ま。そういうことです。

役6 むう……。

役10 ちなみに、亡くなった方は、そこで首を吊って、遺体はその辺りに散らばっていたんです。

役10 は役6の足元を指差す。

役6 ちょ！ え、マジですか！（飛び退く）

役10 失礼な人だと思ってましたけど、わざと踏んでるわけではなかったんですね。

役6 勘弁してくださいよ……。

役10 は役6を相手にせずに、鞆を開けて、線香と蠟燭を出して、簡易の祭壇を用意する。

役10 はあ……。ごめんね。待たせたね。

役10 は静かに手を合わせる。

役6 ……。

役6 は役10を見ていたが、やがて一緒に手を合わせる。

役10 ……ありがとうございます。

役6 いいえ……。

役10 とりあえず、今はどちらも自分の弟だと思おうにしているんです。

役6 はい。

役10 いわゆる、身元確認のDNA検査というのは、DNA全体のごく一部でしか判断していません。だから、全部の塩基配列を見て、それが一致しているのを確認したわけではない。つまり厳密には、「遺伝子の一部を見る限り、その個体は同一人物である可能性が高い」ということしか言えないんです。

役6 なるほど。

役10 で。幸いといえますか。原発事故で被災した人間は、放射線の影響を調べるために全員ホールゲノム解析が行われています。

役6 ホール……？

役10 その人の全ての遺伝子配列を調べてあるということです。

役6 あ。

役10 ええ。だから今、被災した時の弟のホールゲノムと、遺体から得られたDNA、それから記憶を失くしている彼から得られたDNA、全てを比較して、どちらのDNAが弟に完全に一致するかを調べてもらっているところです。

役6 それではつきりするということですね。

役10 ええ。

役10 は、視線を祭壇に戻して、しばしじっと空間を見つめている。

役10 ……なんか、疲れちゃったね。

役10 は鞆から缶ビールを取り出すと、祭壇に供える。

役10 一緒に飲みたかったけど……。

役10 はそのまま、缶ビールを眺めている。

役10 ずーっと来るとき景色を見てたんですけど。

役6 ええ。

役10 言われなきゃわかんないよな、と思って。

役6 何がです？

役10 ここには住めないって。

役6 ……。

役10 山があって、川があって、家があって。車があって。路肩に小さな花が咲き始めていて。確かに町は荒れてますけど、見えるパーツ、パーツは全部いま住んでいる場所と一緒に。今ここにこうしてたって、何も感じない。感じないどころか、私たちは放射線を察知できる感覚器を持ち合わせていない。なのに。自分では変化を実感できないのに、でも帰ることはできないって。もうここは住むことができなくなっただんですって……。そんなこと急に言われても……。なんていうか……。理不尽だな、と。

役6 ……。

役10 弟も、同じ道を通って、同じことを思ったのかなって。

役6 車があったの、確かこの近くですね。

役10 避難先で、上手くいかなかったと何となく聞いてはいたんですけど。

役6 ……。

役10 こういうことなのか、って。

役6 ええ。

役10 今更何言ってるんだって話ですけど。

役6 ……。

役10 ……。

役6 ……でも。同じなんかじゃありませんよ。

役10 え？

役6 同じに見えますけど、もうここは全然元の場所なんかじゃない。

役10 そりゃ……

役6 すごい虫だと思いませんか？

役10 この部屋？

役6 ここだけじゃありませんよ。この辺はみんな。先生はこの部屋に住めます？

役10 それは……

役6 すごい蛙の声。

役10 ……

二人が黙ると、蛙の大合唱が大きく迫って聞こえる。

その中には、微かに虫の羽音や、時折、夜の鳥の声が混じる。

二人は大自然に包囲されている。

役6 ……。写真集を出した時、もっとノスタルジックなものを期待してましたって、言われたことがあります。

役10 ……

役6 汚いって。動物の糞だらけになった床や、藪になった庭。ネズミが汚した泥だらけのベッド。なんでもっと、ラピユタみたいな写真撮らないんだって。

役10 ラピユタ。

役6 良い表現ですよ。言い得て妙。

役10 違いますよ。

役6 ええ。カビが生えたり虫が湧いたり、ポコポコになった畳やカーペット。そこに土足で上がって、座布団を踏みつけながら写真を撮るんです。

役10 ……

役6 人が住んでなきや町じゃないんです。ここは。もう、もう一回全部作り直さなきや元に戻らないんです。

役10 ……

役6 弟さん。多分、そう思ったんじゃないかな。

沈黙。

2人は、それぞれの思考に沈む。

窓の外には、産学複合都市のドーム状の建物が見える。

ドームはまだ自然の侵食に抗って、生き残っているようだ。

役10 （沈黙の後に）……あそこで弟は働いていたんですよ？

役6 メインドームですか。

役10 ええ。他の産学複合都市に行ったことがありますけど、都市ごとに全然雰囲気が違うんですね。

役6 あれ、ほとんどが動物舎らしいですよ？

役10 へえ。

役6 第6は動物実験施設に力を入れていたらしくて、世界でも最先端の動物飼育環境が整えられていたみたいです。しかも、「深海」が管理しているので、中の動

物は変わらず生きています。

役10 ……弟の研究ですけど。

役6 ええ。

役10 彼は、動物の体内で人間の臓器を作り出す研究をしていました。

役6 キメラ法ってやつですよ？

役10 そうです。結局、今は人口子宮法が普及して、臓器工場といえば、基本人工子宮による個別臓器の製造が基本です。キメラ法はもうほとんど誰もやってません。

役6 ええ。

役10 だけど、この第6はキメラ法がメインの研究機関でした。

役6 はい。

役10 キメラ法の強みは、動物の体内に、複数の種類の人間の臓器を作らせることが理論上可能なことです。

役6 ほう。

役10 例えば、あの施設の中には幾つもある人間の臓器を持った動物がいるかもしれない。

役6 ふんふん。

役10 もちろん、その臓器の中には、脳だって含まれます。

役6 ……え？

役10 嫌な予感がしています。「深海」が、あそこで、研究をどのように発展させているのか。

役6 ……。

沈黙。

役10 あなたの持つてるIDとパスがあれば、確実に中には入れるんですよ？

役6 おそらく。

役10 ……いいですよ。私も行きます。

役6 本当ですか。

役10 ええ。

役6 よし。

役10 そういえば最初に、私が持っていた機械ですけど。

役6 ええ、はい。

役10 あれは特定の匂いのパターンを検出することができます。特に実験動物の行動を制御するのによく使われるんですけど、これを使えばあらゆる動物にかなり綿密な行動を起こさせることができます。弟の身体は、犬に食い荒らされていました。しかし、その食い荒らした犬は、何者かに匂いづけ行動制御をかけられて、故意にそうさせたのかもしれないです。

役6 「深海」が、動物を使って外にまで触手を伸ばしている？

役10 そうかもしれません。

病院。

役5が役9、DNA解析の研究者（役14）を引き連れて部屋に入ってきて来る。

役5 さあ、ようこそ。

役9 はいはい。

役14 ……。

役5 まずは、何か入れますよ。コーヒーでよろしいですか？

役9 私はいいわよ。

役14 あ……、私は。

役5 え？

役14 あの。持参したものがあるので。

役5 持参？

役14 は魔法瓶を取り出して、役5に見せる。

役5 お。

役14 すいません。

役5 いえいえ。じゃあ、僕らはコーヒーを。

役9 ありがとう。

役5はコーヒーを2人分淹れる。

役14は自分の座る椅子をスプレーで拭いてから座る。

役9 痩せたんじゃない？

役14 そんなことないよ。変わらないよ。

役9 ちょいちょいこっち来てるの？

役14 うん。3ヶ月とか半年に1回くらい。

役9 声かけてよ。

役14 だってなんか悪いし。

役9 悪くないでしょ。

役14 そっか。

役9 そうよ。

役5がコーヒーを持って来る。

役5 どうぞ。

役9 ありがとう。この子ね、私とタメなのよ。前までここにいたの。

役5 じゃあ、僕とも同じ年だ。え？ 講座は？

役14 理学部の橋田研に。

役5 そうなんですか！

役14 はい。  
役5 すごいですね。  
役14 いえいえいえ。  
役9 すごいのよ。この歳で准教授よ？  
役5 すごいですよ。  
役9 いえいえいえ。

役14 は魔法瓶を開けて、液体を注ぎ、飲む。

役9 さ、早速やっちゃいましょ。

役14 うん。

役5 よろしくお願いします。

役14 はパソコンを開くと、画面を見せながら説明する。

役14 3サンプルありましたよね？ 結論から言うと、2サンプルは同一と考え  
て良いと思いますけど、1つは別の検体と考えたほうが良いかもしれません。

役5 やはりそうですか？

役14 そうですね。

役14 は画面を操作しながら説明する。

役14 とりあえず。これがサンプル1です。

役9 サンプル1はなんなの？

役5 彼の被災した直後に採取されたDNA。

役9 これが彼自身ってことね？

役5 そうそう。

役14 これはサンプル2。これをこうやって重ねてみると……。

役5 おお。

役14 99.996%一致します。

役9 むしろ100%じゃないんだ。

役14 うん。遺伝子も揺らぎがあつてね。同じ人の体の中でも、微妙なエラーが蓄積して、それぞれの持つDNAは微妙に違って来るの。

役9 へー。

役14 この場合、領域的に考えて問題にならないと思う。

役9 じゃあサンプル3が合わないんだ？

役14 そうね。

役9 3が骨で見つかった方？

役5 ……いや。彼の方だよ。

役9 嘘……！

役5、役9は動揺する。

役14 ……まずい結果でした？  
役5 ……いえ。詳しく教えていただけますか？  
役14 面白いのはここからなんです。

役14 はまた別の画面を開く。

役14 まず一つ目の面白いところは、サンプル3でも、サンプル1とかなり広い領域で遺伝子が一致していることです。その領域は90パーセントを超えています。

役9 え？ そうなの？

役14 うん。だからサンプル3はサンプル1から得られたゲノムを使って編集されたDNAだと思う。

役9 編集された？

役14 うん。というか、このサンプルはどういうものなの？ バイアスがかからないように詳細は聞いてなかったけど、とても面白いサンプルなんだけど。

役5 面白いというのは？

役14 これ、遺伝子編集動物のサンプルですよ。だけど、ここまですごい遺伝子編集は初めて見た。先生がやられたんですか？

役5 いや、僕ではありません…。

役14 違うんですか？ これはすごい技術ですよ。この遺伝子を持った動物を作ったら、どうなるんでしょうね？ ほとんど人間と見分けがつかないんじゃないかな？

役9 見分けがつかないって…え？

役14 え？ これ元々は豚じゃないんですか？

役5と役9はあまりのことに言葉を失う。

役14 あ、あれ？

役5 ……サンプル3は、今私の患者さんからとってきたサンプルです。

役14 え？ ……え？ 患者さん？ え？

役9 コンタミネーションではないの？ あなたの実験サンプルが混じってたとか？

役14 それはありえない。まず私は豚のサンプルを扱ったことがないし、遺伝子が壊れてたらそもそもシーケンスできない。

役5 あのどうして豚だと？

役14 受精卵が卵割して胚形成する際に必要な遺伝子領域がそっくりそのまま残されています。それから、おそらく母豚由来だと考えられる遺伝子領域に、人工的なメチル化が施されている。

役5 メチル化？

役9 鍵がかけられてるってことよ。

役14 つまり、わざわざは豚由来の不必要な遺伝子が使えなくされていて、それ

を補う形で人間の遺伝子が組み込まれているんです。

役5 本当に豚で間違いない？

役14 気になったから、大学院生に調べてもらっていたんです。そしたら、ジーンサーチで一致したって。

役5 そんな……。

役14 あの……。言いくいんですけれど、患者さんってことは、この遺伝子を持った動物は生きてるってことですか？

役5 ……。

役14 もしそうなら、これは大変なことですよ？ 誰がこんなことしたのかはわかりませんが、70パーセント以上の遺伝子改変動物は、法律で作成が禁じられています。それどころか人間から得られたDNAを使ってこんなことしたら、どう考えたって重大な倫理違反になりますよ。

役5 ……。

沈黙。

役14 信じられない……。

役9 言っとくけど、私たちが作ったわけじゃないからね。

役14 わかってるよ。こんなすごい遺伝子編集、普通の人じゃ無理。

役9 そうよ。だからあなたに依頼したんだし。

役14 待って。じゃあ、この豚ちゃんはまだ生きてるってこと？

役5 ……豚ちゃん。

役14 そうですよね？

役5 ええ……。

役14 あの……。見せてもらっちゃダメですか？

役5 ……え？

役14 見せて下さいよ！ これだけ編集された動物って、どんな形質を発現するんだろう？ いいですよね？

役9 あんたね。見せもんじゃないのよ？

役14 なんでよ！ だってこれ、研究者にとっちゃ結構夢だよ？ こんな研究。思いつくけど誰もできない。どうなるのかこの目で確かめたい。

役9 ……。

役14 先生、お願いです。せっかく頑張ったんだし。どうか屠殺する前に、見てみたいんです！

役5 ……屠殺？

役14 ええ。

役9 屠殺って……。

役14 するでしょ？ 殺処分。だって違法ですもん。

役5 は言葉を失ってしまう。

役5 を見つめる役9。

戸惑う役14。

役6と役10は第6産学複合都市の施設内に入り込んでいる。役6は小型のカメラを構え、ブツブツと状況を描写しながら、歩いている。

役6 えー、今から動物舎に入ります。認証装置があります。(カードをかざし、暗証番号を入力する)……開きました。おお。開きました！ 先生、開きましたよ！

役10 いいから、早く入って下さい。

役6 おお。……おおー。

役6 は部屋に入る。役10はそれに続く。

レールを走る自動給餌器の音が部屋の至る所で聞こえる。何列も巨大な本棚のよ  
うな棚が並び、中には小さなゲージが詰め込まれている。

ゲージの中からは、カサコソと小型の動物が動き回る音が聞こえる。

2人はしばらくその光景に圧倒される。

2人 ……。

部屋の中は音で満ちている。

役6 ……ヤバイな。

役10 信じられない。

役6 しかし暗いな。

役10 おそらく日照時間が厳密に管理されてるんでしょう。ここでは今は夜なんですよ。

役6 じゃあ、ずっとこの暗さ？

役10 いつまでかは分からないですけど。

役6 は手近なゲージの中身を覗き込み中を撮影する。

役6 うわ……なにこれ。あ、ネズミか。

役10 ブラックですね。

役6 ブラック？

役10 黒い毛並みのマウス。

役6 へえ……、気持ち悪い。

役10 確かに、暗い中で見るとちよっと嫌ですね。

役6 え？ なに？

役10 なんですか？

役6 小さいのが動いてる！

役10 え……わ。子供だ……。

役6 子供？

役10 そうか。ここは繁殖室なのかもしれないですね。

役6 繁殖室。

役10 自分のところで実験動物を調達できるように、そんな施設まで作ってたのか。

役6 じゃあ、この辺りのゲージは？

役10 マウスの親子がいっぱいいるんでしょうね。

役6 嫌だ……。

役10 この8年間、この施設はこうやって動き続けていたのか。

役6 ……。

沈黙すると、動物たちが床敷きを蹴散らす音が、そこかしこから漏れ聞こえてくる。

役10 ……行きましょう。

役6 ええ。

2人は黙って進む。

役6 早く明るくならないかな？

役10 ですね。

役6 は急に立ち止まる。

役10 なに？

役6 扉です。

役10 ああ。

役6 は壁をライトで照らしている。

役6 入りますか？

役10 ここは？

役6 ……大型動物舎って書いてありますね。

役10 ……入らないわけにいかないでしょう？

役6 ですよ。

一瞬の沈黙があつてから、役6はカードキーをかざし、暗証番号を入力する。扉が開く。  
扉の向こうは、やはり暗い。

2人！

2人は匂いに顔をしかめる。

役6 凄い匂いだ。  
役10 ええ……。  
役6 ……入りますよ。  
役10 はい。

視界はさらに悪くなる。

役6 なんでこんなに暗いんだ……。  
役10 どうなってるんですか？  
役6 これは？ ……ああ、鉄格子がありますね。  
役10 鉄格子！

役6 は中を照らす。ゆっくりと。恐る恐る。中にはなにもいない。

役6 空です。

役10 (ため息)

役6 はー。バイオハザードやってるみたい。

役10 嫌なこと言わないで下さいよ。

役6 確かに……。すげー怖くなってきた。言わなきゃよかった！。

役10 バカなんですか。

役6 あはは。あれ？ こども空ですよ？

役10 え？ あ、本当だ。

役6 流石に、大きな動物は飼ってないのかもしれないかもしれませんね。

役10 コスパも悪いですか。

役6 そういうことです。

光の中に、人の足が浮かび上がる。

役6 え？

光を上げると、そこには半裸の人間の男が立っている。男は2人を眩しそうに見つめている。

2人！

思わず声を上げる2人。  
それに呼応するように、突然半裸の男が、意味不明の大声をあげる。怯えているようだ。

立ちすくむ2人。

それに追い打ちをかけるように、辺りから様々な人間の鳴き声が湧き上がる。鉄格子を無理に揺らすような音や、何かを叩きつけるような音も混じる。

2人は、闇の中、人間の鳴き声に取り囲まれ、どうすることもできない。  
暗転。第3部へ。

### 第3部

1

朝のニュース番組の効果音。

アナウンサー(役15)、司会(役16)、コメンテーター(役17)が横並びで、朝のニュースが始まる。

役15 おはようございます。朝のニュースです。まず、第6産学複合都市関連ニュースからお伝えします。第6産学複合都市に配備されていた研究用AI「深海」は、10年前に設置された当初から、法律で定められた倫理規定を意図的に学習させられていなかったことが、関係者の証言により明らかになりました。

より高度な研究成果を出すために、AIの「思考のタガ」を敢えて外していた可能性が考えられます。

この度、第6産学複合都市の大々的な立ち入り調査により、違法な遺伝子操作を施された動物が大量に作成されていたことが明らかとなり、周囲に不安が広がっています。セトウチ原発事故による影響で、第6産学複合都市は8年間にわたり無人の状態で放置されていましたが、その間、「深海」がどのような研究を行っていたのか、その全体像はまだ掴めていません。研究施設内で作られた遺伝子改変動物が、施設外に逃亡した可能性も考えられており、政府は調査チームを立ち上げて、実態の把握を急いでいます。

役16 どんどん新しい事実が出てきていますが、山上さんいかがですか？

役17 これはかなり大変なことだね、私も研究者の端くれだと思っているけど、まず一番に考えなくちゃいけないのは、倫理のことなんだよね。研究者が倫理観を失ってしまったら、それこそ毒ガスやホロコーストを引き起こしかねない。我々の世代はそういうことを若い頃に叩き込まれてきたもんだけど、最近の研究者は違うということなのかね？

役16 「深海」は人間ではないのだから、倫理が適用されることはない、という意見も一部ではあるようですが。

役17 論外だね。倫理とは絶対に踏み越えてはいけないラインのことで、機械はいいとか、そういう類のものではないわけだし。

役16 また、そのような指示を誰が出していたのか？ 責任の所在もイマイチはつきりしてきませんよね。

役17 こういう、官民が一体となってやるとなった場合には、誰が主体でやるのかはつきりさせるべきだよ。そして誰がいざという時に責めを負うのか。このま

までは国民は納得しないだろうし、事態は治らないと思うけどね。

役16 他の産学複合都市でも同じようなことが行われている可能性も出てきますよね。

役17 まったくその通りだよね。これは複合都市全体で、キチツとした調査が必要だと考えるね。

役16 倫理を無視した研究を長年放置し、違法な遺伝子組み換え動物の流出まで疑われているこの問題。なぜこんなことが起こってしまったのか、再発を防ぐ仕組みづくりなど、政府は早急に取り組んでいってもらいたいと思います。

役15 現在、国会前では産学複合都市の廃止を求める市民の集会が行われています。CMの後は中継です。

2

デモ隊の声。

拡声機を使った掛け声。太鼓の音。

人工知能や産学複合都市への反対を人々は訴えている。

3

警告を発するアラームが、画面越しに聞こえてくる。

電子音声 こちらはファイトン警備会社のドローンです。ここから先の関係者以外の立ち入りは禁止されています。今すぐ立ち退いてください。こちらはファイトン警備会社のドローンです。ここから先の関係者以外の立ち入りは禁止されています。今すぐ立ち退いてください……。

複数言語で警告は繰り返される。

役1 一部デモ隊が暴徒化しています。

役2 今時火炎瓶とか、どうかしてるよな？

役1 どうするんですか？

役2 うちからも3チームくらい応援出すみたいよ。

役1 マジですか？

役2 しょうがないよ。そういう仕事だもん。

役1 ドローン部隊で良かったですよ。

役2 あれ？ なんか画面変じやないか？

役1 げ。妨害電波出されていますね。

役2 あらま。

役1 何がしたいんだこいつら。

役1は手元のタブレット型操縦機をいじって、対応する。

役1 チャンネル切り替えました。

役2 安定したな。

役1 ……こんなのいつまで続くんでしょうか？

役2 さあな。

役1 正直こういう奴ら、マジで理解できないんすよね。

役2 そーな。

役1 馬鹿でしょ？ こんなことしても何も変わらんし。

役2 まあな。

役1 頭の悪い奴ら。

役2 俺もさ。そう思うよ。

役1 ええ。

役2 だけど俺やお前みたいなのが、扱いやすいんだろうな。

役1 え？

役2の端末が鳴る。

役2 はい。こちら301ドローン部隊。……はい。……了解。

役2は端末を閉じる。役1が指示を待っている。

役2 放水許可が出た。

役1 マジすか！

役2 放水開始。

役1 了解！

2人は無言でデモ部隊に放水する。画面の向こうに、水圧に蹴散らされていくデモ部隊が映る。画面の音声は聞こえない。

4

病院。

役3と役4がいる。少し離れたところに役8。

役4 あれがそうなんですな？

役3 確かに人間にしか見えんな。

役4 あれが豚のお腹の中から出てきたって思うとゾッとしますね。

役3 そうか…。そういうことだよな。

役4 どうします？ 課長もあれ作ってもらったら、どの臓器でも交換できますよ？

役3 お前サイコパスか？

役4 違いますよ。

役3 信じられんやつだな。

役4 ……ですけどー。

役3 ……？ なんだよ？

役4 や。テレビとか、みんなすごい批判してますけど、別に良くね？ ってちょっと思ったりして。

役3 え？ どういうこと？

役4 そんなダメですか？

役3 だって。お前、豚にこんなもの産ませたんだぞ？

役4 ー。…こんなものって言いますけど、これ豚ですよね？

役3 は？

役4 外見に捕らわれ過ぎじゃないですか？

役3 はー？  
役4 だって、これ元々は豚の受精卵ですよ？ それを遺伝子操作しただけであつて。

役3 ほとんど人間の遺伝子なんだぞ？

役4 割合は関係ないじゃないですか？ 1割でも4割でも9割でも、豚は豚ですよ。

役3 ー？

役4 クローンだったら、人間ですよ。だけど、これは遺伝子操作豚であつて。…：だったら、良くないですか？

役3 え？ え？ そうなのか？

役4 今、人工臓器って人工子宮法しかありませんけど、あれだとしても高額になつて、医療費がすごい嵩むじゃないですか。でも、この方法だったらすごい安く臓器が作れるんですよ？

役3 値段の問題じゃないだろ？

役4 そうですか？ でも、課長がもし心筋梗塞で動けなくなった時、これがいたら心臓移植がすぐできるんですよ？ ハムみたいな値段で。

役3 ハム！

役4 ハムでしょ？

役4 違うだろ！

役4 まあ、純粹にはハムはもも肉ですけど。

役3 部位の問題じゃねえ。

役4 その通り。部位を選ばず取り替えられちゃう。

短い沈黙。

役3 ……目眩がしてきた。

役4 肩貸しますよ？

役3 若い奴らって、みんなそうなの？

役4 みんなかどうか知りませんが、結構そういう話は聞きます。

役3 そうなのか。

役4 だって課長、超便利ですよ？ 何かあってもすぐ臓器交換できるし。人工子宮みたいなのに、メンテナンスもいらぬ。使うまでは自分でエサ食べて、維持してくれるんですよ？

役3 俺にはどれだけ豚って言われても、人にしか見えないけどな。

役4 それは、あくまで外見です。

役5 うーん。

2人は役8を改めて眺める。

役3 やっぱあれかねえ。生まれた時から、人工臓器とか遺伝子組み換え動物とかが当たり前だと、感覚も違ってくるのかねえ。

役4 あ、豚がいる。

役3 お前サイコパスだよ。

役5 がやってくる。

役5 あの。

役4 あ、先生！

役3 ああ、こちらが。

役5 初めました。

役3 先生、今回は色々ありがとうございました。先生がいなかったら、全然違うことになっていたと思います。

役5 いえ。そんな。

役3 我々は今晚から、この病院で待機させて頂きます。

役5 そうですか……。

役3 どうですか？ 対象に変わりはありませんか？

役5 対象って、彼のことですよ？

役3 ……はい。

役5 いつも通りです。

役3 そうですか。

役5 生い立ちが分かったことで、治療も順調に進んでいました。

役3 ……彼はどうなるんですか？

役3 分かりません。明日、我々は指定の施設へ対象を移送することになっていますが、それ以降のことは皆目知らされておりません。

役5 ちゃんと人間として扱われるのでしょうか？

役3 それも何も知らされておりません。

役5 彼は……。

役3 先生。

役5 ……はい。

役3 申し訳ありませんが、我々から何か申し上げることにはできないのです。明日、

カルテのデータも全て持ち出されず。その後、彼がどこでどのように扱われるかは、我々にも知らされておりません。

役5 あんまりじゃないですか。彼は僕の患者ですよ？

役3 お気持ちは大変よくわかります。ですが、我々に何を言っても、意味がないこともよくお分かりですよね？

役5 ……。

役5 は言葉を飲み込むと、立ち去る。

5

役8 が動いている。彼は歩くこともできるし、何かに興味を持って、それに手を伸ばし、触れて調べることもできる。しかし、その動きは未熟で、洗練されていない。赤ん坊のように。

6

役5 は役8を見つめている。

役5 ……。

役6 がやってくる。

役6 ……。

役5 もう患者の外出時間は過ぎていますよ？

役6 警官がウロウロしてますね？

役5 そんなことも分かるんですか？

役6 分かりますよ。奴ら、目立ちますから。

役5 僕にはよく分かりません。

役6 俺を捕まえに来たのじゃなければ、これを連れて行くのでしょうか？

役5 ……どうですかね。

役6 先生はお優しいですよ。

役5 なんですか？

役6 大変な人たちを相手に、よくやられている。

役5 一応あなたも、その大変な患者の一人なんですけどね。

役6 いやあ、なかなか良くなりません。

役5 よく言いますよ。

役6 本当に、トラウマになったんですよ。

役5 あんな記事を出しておいて。

役6 必死のルポです。病院で24時間監視してもらわないと、いつ何が起こって

もおかしくない患者です。  
役5 病院はホテルじゃないんです。  
役6 重症なんです。  
役5 永遠に治りませんよ。  
役6 酷いなあ。

2人は役8をしばらく黙って見ている。

役5 ……やはり死なせなくてはいけないのでしょうか？  
役6 そりゃそうでしよう。これが生きていたら、いつまで経っても市民はその存在を忘れられないし、他の産学複合都市の運営にまで響いてくる。とにかく早く消してしまいたいんじゃないですか？

役5 あなたの撮った映像。ネットで見ましたよ。

役6 すごいでしょ？

役5 ええ。

役6 カメラは没収されましたけど、クラウドに全部飛ばしてましたからね。

役5 あれを見せられたら、それでもう十分な気がしますが。

役6 だから世の中大騒ぎでしょ？

役5 こうなると思ってました？

役6 手応えはありましたね。

役5 テレビをつける度に、どんどん酷くなってる。

役6 そうでしょうね。しばらくはずっとこの調子でしょう。しばらくはね。

役5 どういうことですか？

役6 別に何も変わりやしませんよ。消費されていくだけです。大騒ぎしている間に、賢い人たちが、大事な部分を蓋して終わりです。

役5 そんなこと。じゃあ、あなたは何のために…

役6 仕事ですからね。

役5は絶句する。役6は役5の顔を見ない。

役5 彼が不憫でなりません。

役6 彼って…、この豚ですか？

役5 ……

役6 そんな顔しないでくださいよ。実際、豚の腹から生まれてきたんですから。

役5 僕は。僕は、「人間」とは。人からただ生まれてきたものを指す、という定義は、不十分であると思います。

役6 へ？ じゃあ、何なんです？

役5 彼は、確かに生物学的には人、つまりホモ・サピエンスではないのかもしれない。しかし知性を持っています。いや、持てるポテンシャルがある。そういう意味で、彼は新たな知的生命体、「人間」だと思ふのです。

役6 先生って、医者向いてないんじゃないですか？

役5 そうですか？



8

役10 途中から、この人が弟でないのは感じていました。自分たちの姉弟仲は希薄だと思っていましたが、それでも長らくの蓄積が自分たちの中にフィルタ―として結晶化していたのでしょうか。  
だから今、こうやってこの人を尋ねてくるのは、純粹に彼に会いに来ていたので。弟の遺伝子があるからでもなく、もはやヒトですらない者なのはよく分かっているのですが、それでも彼を忘れてしまうことができない。  
日に日に、変化していく彼は、見ていてとても面白いし、自分たちの間では、通じ合うものを最近感じるのです。

9

役8と役10を、遠巻きに役5と役6が見ている。

役6 わざわざ同じ病院にしくたって。

役5 彼女が希望したんです。

役6 大丈夫なんですか？

役5 何かです？

役6 わからないんですか？

役5 え？

役6 は笑って何も答えない。

役10と役8の間には、親密な空気のようなものが漂っている。  
2人は見つめ合っている。

役8 ……ねっっちゃ（姉ちゃん）。

役10 !

役8 ねっっちゃ。

役6の顔は青ざめる。役5も目を見開き、固唾を飲んで2人を凝視している。

役10 ……!

役10は嬉しそうな顔をして役8を祝福しようとするが、役8が寄ってくると、その表情は固まってしまう。

役10 ……。

役10は自分の感情に戸惑い、役8をうまく祝福することができない。

役8はそんな役10の微妙な反応に、全く気づくことはない。  
役10はぎこちなく役8を抱擁するが、その表情は固く、引きつっている。

役8 ねっちゃ。

役10 ああ……。よかった……。

そして、唐突に闇。

10

役10 全ては、ある朝終わっていました。ネームプレートも、彼の数少ない私物も、何もかもが、拭い取られたように持ち去られています。空になった病室。私は彼の部屋に立って、彼の笑顔のような表情や、目と目が合った時のくすぐったい感覚を思い出し、それがなんの前触れもなく奪われてしまったことに、鋭い痛みと、激しい怒りを覚えました。暴風雨のようなその感情は、弟の死を知らされた時よりも激しく私の心をかき乱し、バラバラに砕きました。彼が私にとってどれだけ大きな存在であったか、自分が彼に必要とされていたことに、どれだけ救われていたのか、その時初めて気づかされたのです。

その後、短い間がある。

役10 しかし。全てが過ぎ去った今、私の心に残されているのは、井戸のように深くて暗い安堵です。彼の存在が消えてしまったことに、私は安堵したのです。開いてしまった重い扉を、誰かが乱暴に閉めてしまった。私がこれから向き合わなくてはいけないこと、立ち向かわなくていけなかったこと、全てが乱暴に取り上げられてしまった。私はそれに安堵したのです。私はそんな自分に愕然としながら、閉ざされた重い扉の前で、それをもう一度押し開くこともできず、ただ立ち尽くしています。

11

静寂。

何も見えない闇。

しかし闇の中、誰かの気配が感じられる。

役8 ねっちゃ……。

役8が闇の中、気がついた。

役8 ねっちゃ……。。

役8は役10を探しているようだが、そこには誰もいない。役8は人がやっと人立てるような、小さなゲージに入れられている。

役8 ねっちゃ！ ねっちゃ！

役8は格子を掴んでそれを揺さぶる。役8の声の中に、不安や恐怖の感情を読み取ることができる。しかし、その声に誰も応えるものはない。

役8は子供のように泣き叫ぶ。そこには明らかな絶望が感じられる。

ガス（二酸化炭素）の噴出音が聞こえてくる。

役8は咳き込みながら苦しみ、丸く小さくうずくまって動かなくなる。

幻のように役8のいた病室が浮かび上がる。

そこに立つ役10。

役10 ……。

役10は役8に笑顔を向けている。役8はその幻に反応しようとする。しかし、もう動けない。

ガズの音がずっと聞こえている。

闇の中に、動かなくなった役8の影が1人沈んでいく。

もはや、彼を見つげられる人は、どこにもいない。彼の孤独が深まる。

FIN